

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月14日
【四半期会計期間】	第91期第2四半期（自平成25年7月1日至平成25年9月30日）
【会社名】	小池酸素工業株式会社
【英訳名】	KOIKE SANSO KOGYO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横田 修
【本店の所在の場所】	東京都江戸川区西小岩三丁目3番16号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)
【電話番号】	03(3624)3111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 岡崎 隆
【最寄りの連絡場所】	東京都墨田区太平三丁目4番8号
【電話番号】	03(3624)3111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 岡崎 隆
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 小池酸素工業株式会社 城北支店 (埼玉県川口市領家三丁目10番19号) 小池酸素工業株式会社 千葉支店 (千葉県市原市八幡海岸通47番地) 小池酸素工業株式会社 京浜支店 (神奈川県川崎市川崎区宮本町8番地15) 小池酸素工業株式会社 名古屋支店 (愛知県名古屋市瑞穂区牛巻町12番地9) 小池酸素工業株式会社 大阪支店 (大阪府大阪市城東区中央二丁目4番15号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第2四半期 連結累計期間	第91期 第2四半期 連結累計期間	第90期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	19,906	18,242	41,100
経常利益(百万円)	323	20	1,402
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失() (百万円)	353	471	1,020
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	335	437	2,004
純資産額(百万円)	23,058	24,868	24,704
総資産額(百万円)	47,382	48,343	49,355
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額() (円)	8.47	11.38	24.52
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	45.67	48.09	46.94
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	56	535	1,894
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	571	733	22
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	972	805	888
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	6,640	7,522	8,201

回次	第90期 第2四半期 連結会計期間	第91期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額() (円)	1.62	8.17

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第90期第2四半期連結累計期間及び第90期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第91期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新興国経済の減速などがありましたが、欧州の景気が下げ止まりしたことや米国経済が回復基調を維持したことなどから、緩やかな回復の動きが見られました。

一方、わが国経済は、各種経済政策を背景に雇用情勢や企業収益の改善、個人消費に好転の兆しが見られ、景気は緩やかに回復しつつあります。

当社グループの主要先である鉄鋼、造船、産業機械、建設機械などの各業界においては、生産や設備投資に回復の兆しが見えたものの、労働力不足、資材不足による建設工事の遅れや、造船の手持ち工事が低水準で推移したことなどの影響を受けて厳しい状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループは世界市場に向けた新技術・新製品の開発と販売力強化、生産効率の向上、原価低減や経費削減に取り組みましたが、海外部門の不振などから、その効果は限定的なものとなりました。また、減損損失3億4百万円を特別損失に計上したため、四半期純利益は減少しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は182億42百万円（前年同期比8.4%減）、経常利益は20百万円（同93.5%減）、四半期純損失は4億71百万円（前年同期は四半期純利益3億53百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

機械装置

機械装置部門においては、5月から創業95周年を記念したグランド95キャンペーンパートを開始するとともに、東日本を中心に実演車を活用した巡回販売を行いました。また、9月に最新鋭の「ファイバーレーザー切断機」、残材の有効活用により歩留り向上を図ることができる「パッケージナビゲーションシステム」、新型プラズマ装置「SUPER-400 PRO」、ポータブルCNC切断機「PNC-12」などを展示したプライベート・フェアを開催しましたが、需要の低迷と競合他社との価格競争により厳しい受注環境になりました。

海外においては、6月の北京エッセンショーに続き、9月に開催されたドイツエッセンショーに「ファイバーレーザー切断機」、「PNC-12」などの出展・紹介を行い、需要の喚起を図りましたが、ブラジル向け切断機の納入延期などもあり、大幅な減収となりました。

生産面においては、「ファイバーレーザー切断機」の厚板切断面品質と安定性および小円切断能力を向上させ、新規組立ラインを整備するとともに、同切断機の海外現地法人への技術移管を進め、中国、ドイツでの展示会出展用試作機を製作しました。その他、「SUPER-400 PRO」、「PNC-12」の開発を完了させ、プライベート・フェアへの出展を機に国内での受注を開始しました。

しかしながら、国内外の厳しい受注環境が続き、成果をあげることができませんでした。

その結果、売上高は73億32百万円（前年同期比14.6%減）、セグメント損失は61百万円（前年同期はセグメント利益1億15百万円）となりました。

高压ガス

工業用ガスにおいては、酸素・窒素などのセパレートガスをはじめとした主要ガスの販売量は、前年並みに推移しました。また、電気料金の上昇や原材料の高騰によるガス価格改定に取り組みました。さらに、新たな営業展開として、水素をベースとした切断用混合ガス「スーパーカットH」、混合器ユニット「スーパーミキシングH」の販売活動を開始しました。

生産面・供給面においては、保安確保のため、「容器管理システム」の更新を行い、容器RFタグ（ICタグ）移行に対応できる準備を整えました。また、国内の炭酸ガス不足を受け、輸入ドライアイスの販売を手掛けるとともに、安定供給・品質確保に努めました。

医療分野においては、酸素濃縮器レンタルのサービス部門の強化・品質向上により契約件数が増加しました。また、睡眠医療の検査関連の営業強化により、「ジャスミン」（睡眠時無呼吸症候群治療装置）の契約件数が増加しました。さらに、新型「クロモフェアF」（LED無影灯）が高評価を受け、更新需要を中心に積極的に営業展開を図りました。

しかしながら、産業ガス関連では本格的な需要回復には至らず、成果をあげることができませんでした。

その結果、売上高は72億46百万円（前年同期比0.1%減）、セグメント利益は4億38百万円（同9.9%減）となりました。

溶接機材

溶接機材部門においては、溶接材料の主需要先である建築・鉄骨向けの販売量は増加しましたが、造船や建設機械、橋梁向けなどは伸び悩み、溶接材料全体の販売量の回復には至りませんでした。また、溶接材料の販売強化を図るため、新潟に流通拠点を設置し、営業活動を開始しました。

溶接機器においては、グランド95キャンペーンパート を実施し、溶接機、安全保護具、乾式安全器、溶接関連商品の拡販につなげるとともに、北関東こいけ市をはじめ、東京・大阪など全国各地で展示会を開催し、溶接などの実演を行い、溶接機他、溶接・切断関連商品の拡販を図りました。また、9月のプライベート・フェアにおいては、サブマージーク溶接機の実演と安全保護具、水素用乾式安全器、リフティングマグネットなどの展示を行い、多くの引合いを得ることができました。さらに、輸入商品の販売促進の一環としてドイツ・ディアマント社の金属補修材の既存販売ルートの強化と新規販売ルートの開拓に取り組み、市況の低迷や溶接ロボットなどのシステム販売の減少などもありましたが、収益改善に努めました。

その結果、売上高は34億10百万円（前年同期比4.8%減）、セグメント利益は71百万円（同18.4%増）となりました。

その他

ガス機器においては、大型ヘリウム液化機の引合いが増加し、大学研究機関から1台受注しました。また、排ガス処理装置については、国内半導体・液晶メーカーの統廃合に合わせて製品の改良を行うとともに、電子部品の製造業界団体に対し、新型排ガス処理装置の説明会を実施し、多くの引合いを得ました。海外においては、上海で開催された国際太陽光展示会に出展しましたが、中国経済の減速などの影響により、成果をあげることはできませんでした。

その結果、売上高は2億52百万円（前年同期比47.9%減）、セグメント利益は3百万円（前年同期はセグメント損失4百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は75億22百万円で、前連結会計年度末に比べ6億79百万円の減少となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フローは5億35百万円の収入（前年同期は56百万円の収入）となりました。これは主に売上債権の回収と仕入債務の減少、法人税等の支払いによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは7億33百万円の支出（前年同期は5億71百万円の収入）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは8億5百万円の支出（前年同期は9億72百万円の支出）となりました。これは主に短期借入金の返済による支出があったことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題についての重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、203百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	179,100,000
計	179,100,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	45,229,332	45,229,332	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	45,229,332	45,229,332		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日		45,229,332		4,028		2,366

(6)【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
大陽日酸株式会社	東京都品川区小山一丁目3番26号	2,668	5.90
小池商事株式会社	東京都墨田区錦糸三丁目5番7号	2,479	5.48
小池酸素工業取引先持株会	東京都墨田区太平三丁目4番8号	2,130	4.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	2,048	4.53
株式会社千葉銀行	千葉県千葉市中央区千葉港1番2号	1,993	4.41
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	1,742	3.85
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	東京都渋谷区恵比寿一丁目28番1号	1,603	3.55
株式会社東京都民銀行	東京都港区六本木二丁目3番11号	1,526	3.37
小池 義夫	東京都江戸川区	1,337	2.96
株式会社常陽銀行	茨城県水戸市南町二丁目5番5号	1,130	2.50
計	-	18,661	41.26

(注) 上記のほか、自己株式が3,814千株あります。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,308,000	-	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 40,573,000	40,573	同上
単元未満株式	普通株式 348,332	-	-
発行済株式総数	45,229,332	-	-
総株主の議決権	-	40,573	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が54,000株(議決権の数54個)含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割(%)
中国アセチレン株式会社	山口県宇部市大字東須恵3903番地の3	401,000	64,000	465,000	1.03
株式会社エイ・エム・シー	東京都足立区入谷七丁目11番12号	20,000	-	20,000	0.04
ケーエム酸素株式会社	茨城県つくばみらい市伊奈東33番9号	8,000	-	8,000	0.02
大阪液酸株式会社	大阪府大阪市生野区巽南三丁目2番10号	1,000	-	1,000	0.00
小池酸素工業株式会社	東京都墨田区太平三丁目4番8号	3,814,000	-	3,814,000	8.43
計	-	4,244,000	64,000	4,308,000	9.52

(注) 他人名義として所有している株式は、取引先による持株会「小池酸素工業取引先持株会」(東京都墨田区太平

三丁目4番8号)名義の株式のうち、相互保有株式の持株残高を記載しております。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
常務取締役	営業部長	常務取締役		小池 正孝	平成25年9月1日
取締役		取締役	営業部長兼溶材商品部長	大久保 義孝	平成25年9月1日
取締役	東京支店長、溶材商品部長兼東日本グループ長	取締役	東京支店長兼東日本グループ長	小池 康洋	平成25年9月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東光監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,615	7,995
受取手形及び売掛金	12,271	10,171
商品及び製品	4,447	4,839
仕掛品	1,515	1,992
原材料及び貯蔵品	1,788	1,898
その他	957	1,261
貸倒引当金	227	202
流動資産合計	29,369	27,956
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,721	3,661
機械装置及び運搬具(純額)	1,355	1,387
工具、器具及び備品(純額)	530	481
土地	9,132	9,110
リース資産(純額)	654	740
建設仮勘定	244	758
有形固定資産合計	15,638	16,139
無形固定資産		
のれん	360	26
リース資産	13	9
その他	156	159
無形固定資産合計	531	195
投資その他の資産	² 3,816	² 4,052
固定資産合計	19,985	20,387
資産合計	49,355	48,343

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,625	8,774
短期借入金	4,036	3,089
1年内返済予定の長期借入金	952	1,160
1年内償還予定の社債	140	90
未払法人税等	366	89
賞与引当金	499	350
役員賞与引当金	64	26
製品保証引当金	23	16
その他	2,577	2,894
流動負債合計	18,286	16,491
固定負債		
社債	100	80
長期借入金	1,714	2,356
退職給付引当金	262	251
役員退職慰労引当金	231	215
資産除去債務	13	14
その他	4,042	4,066
固定負債合計	6,364	6,982
負債合計	24,650	23,474
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,028	4,028
資本剰余金	2,357	2,357
利益剰余金	16,882	16,162
自己株式	909	911
株主資本合計	22,359	21,636
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	587	682
土地再評価差額金	1,233	1,233
為替換算調整勘定	1,012	301
その他の包括利益累計額合計	808	1,613
少数株主持分	1,536	1,618
純資産合計	24,704	24,868
負債純資産合計	49,355	48,343

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	19,906	18,242
売上原価	14,973	13,577
売上総利益	4,932	4,664
販売費及び一般管理費	4,625	4,736
営業利益又は営業損失()	307	71
営業外収益		
受取利息	18	11
受取配当金	32	32
受取賃貸料	45	43
物品売却益	13	13
為替差益	-	72
貸倒引当金戻入額	9	23
その他	23	11
営業外収益合計	143	208
営業外費用		
支払利息	52	66
賃貸費用	29	28
為替差損	17	-
その他	27	20
営業外費用合計	127	115
経常利益	323	20
特別利益		
固定資産売却益	668	38
投資有価証券売却益	5	0
その他	-	1
特別利益合計	674	41
特別損失		
固定資産除売却損	9	16
投資有価証券評価損	35	-
減損損失	57	304
その他	0	4
特別損失合計	101	326
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	896	264
法人税、住民税及び事業税	388	61
法人税等調整額	86	97
法人税等合計	475	159
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	420	423
少数株主利益	66	48
四半期純利益又は四半期純損失()	353	471

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	420	423
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	175	96
為替換算調整勘定	90	764
その他の包括利益合計	84	860
四半期包括利益	335	437
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	258	333
少数株主に係る四半期包括利益	76	103

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	896	264
減価償却費	559	614
減損損失	57	304
のれん償却額	46	45
貸倒引当金の増減額(は減少)	8	22
賞与引当金の増減額(は減少)	54	174
役員賞与引当金の増減額(は減少)	28	37
受注損失引当金の増減額(は減少)	15	-
退職給付及び役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	11	28
製品保証引当金の増減額(は減少)	4	9
受取利息及び受取配当金	50	44
支払利息	52	66
関係会社株式評価損	0	4
固定資産除売却損益(は益)	659	21
投資有価証券評価損益(は益)	35	-
有価証券及び投資有価証券売却損益(は益)	5	0
売上債権の増減額(は増加)	801	2,590
たな卸資産の増減額(は増加)	92	505
仕入債務の増減額(は減少)	920	1,129
未払消費税等の増減額(は減少)	6	65
その他	54	427
小計	688	895
利息及び配当金の受取額	50	48
利息の支払額	54	58
災害損失の支払額	23	-
法人税等の支払額	605	350
営業活動によるキャッシュ・フロー	56	535

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	519	960
定期預金の払戻による収入	490	901
有形固定資産の取得による支出	291	644
有形固定資産の売却による収入	33	98
無形固定資産の取得による支出	49	17
無形固定資産の売却による収入	905	-
投資有価証券の取得による支出	10	110
投資有価証券の売却による収入	10	85
子会社株式の取得による支出	-	1
貸付けによる支出	8	91
貸付金の回収による収入	11	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	571	733
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	207	1,125
長期借入れによる収入	400	1,441
長期借入金の返済による支出	455	595
社債の償還による支出	120	70
自己株式の取得による支出	89	2
自己株式の売却による収入	-	0
配当金の支払額	293	248
少数株主からの払込みによる収入	-	16
少数株主への配当金の支払額	21	22
その他	185	198
財務活動によるキャッシュ・フロー	972	805
現金及び現金同等物に係る換算差額	28	324
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	315	679
現金及び現金同等物の期首残高	6,956	8,201
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,640	7,522

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
新洋酸素(株)	39百万円	新洋酸素(株)	28百万円
小池高压ガス(協)	130	小池高压ガス(協)	133
川口総合ガスセンター(株)	31	川口総合ガスセンター(株)	24
(株)市川総合ガスセンター	16	(株)市川総合ガスセンター	15
計	217	計	201

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
投資その他の資産	139百万円	154百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
給料	1,489百万円	1,559百万円
賞与引当金繰入	230	237
役員賞与引当金繰入	27	26
退職給付費用	59	59
役員退職慰労引当金繰入	16	14
貸倒引当金繰入	36	23

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	7,040百万円	7,995百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	399	472
現金及び現金同等物	6,640	7,522

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	293	7.0	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	248	6.0	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機械装置	高压ガス	溶接機材	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	8,587	7,251	3,581	19,420	485	19,906	-	19,906
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	8,587	7,251	3,581	19,420	485	19,906	-	19,906
セグメント利益 又は損失 ()	115	487	60	662	4	658	351	307

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃烧式排ガス処理装置、ヘリウム液化機、加熱プラズマ機器の製造・仕入・販売業が含まれております。

2 セグメント利益の調整額 351百万円には、セグメント間取引消去62百万円、のれんの償却額 46百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 482百万円、棚卸資産の調整額59百万円、その他の調整額 55百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機械装置	高压ガス	溶接機材	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	7,332	7,246	3,410	17,989	252	18,242	-	18,242
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	7,332	7,246	3,410	17,989	252	18,242	-	18,242
セグメント利益 又は損失 ()	61	438	71	448	3	452	524	71

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃烧式排ガス処理装置、ヘリウム液化機、加熱プラズマ機器の製造・仕入・販売業が含まれております。

2 セグメント利益の調整額 524百万円には、セグメント間取引消去68百万円、のれんの償却額 45百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 488百万円、棚卸資産の調整額 48百万円、その他の調整額 9百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「機械装置」において、収益力の低下に伴い、のれんの減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては303百万円であります。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	8円47銭	11円38銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ()(百万円)	353	471
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(百万円)	353	471
普通株式の期中平均株式数(千株)	41,747	41,422

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月11日

小池酸素工業株式会社
取締役会 御中

東光監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	鈴木 昌也	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	外山 卓夫	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	中川 治	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている小池酸素工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、小池酸素工業株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。